

ねぶた・ねぷた 楽しみ方ガイドブック

Nebuta & Neputa
How to enjoy
guidebook

Access Guide



地元目線の
楽しみ方
伝えます!



発行日/2015年3月
発行/青森県観光国際戦略局まるごとあおもり情報発信チーム
青森県青森市長島1-1-1 TEL 017 (734) 9389
編集・制作/株式会社企画集団ぶりずむ



躍動、絢爛、雄壮、幽玄、圧倒……
 多くの人びとを魅了する「ねぶた・ねぶた」
 祭りの見方・楽しみ方は十人十色です
 題材、面、構造、色彩、囃子、ハネトや曳き手……
 県民ひとり一人、違うと言っても過言ではありません
 本書は、青森ねぶた、弘前ねぶた
 五所川原立佞武多、黒石ねぶたを
 愛してやまない人たちの
 見方・楽しみ方を紹介するガイドブックです
 祭りに訪れた方が自分なりの楽しみ方を見つけて
 楽しんでいただけたら……
 そんな思いを込めて制作しました



目次

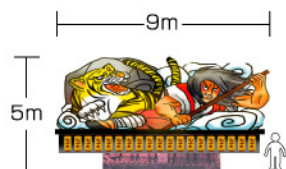
ねぶた・ねぶたの概要……………4
 青森ねぶた……………6
 弘前ねぶた……………14
 祭りの名脇役……………19
 五所川原立佞武多……………20
 お役立ち情報……………25

黒石ねぶた……………26
 ねぶた・ねぶたの起源と由来……………28
 フォトグラファー直伝！撮影テクニック…30
 表紙／千葉作龍『戦国武士華』(2014年)より
 PHOTO／サトウユウジ、八木橋廣広写真スタジオ、
 土屋隆昭、尊馬謙太郎、佐藤史隆

ねぶた・ねぶたの概要



青森 森ねぶた



形態と特徴

青森ねぶたは人形型で、複雑な造形と、躍動感や華やかさが魅力です。大きさは高さ約5m、幅約9m。電線の普及から、高さが抑えられ、横長に大きくなりました。題材は神話や武者物が中心ですが、近年は縄文時代物など新たなテーマも見られます。

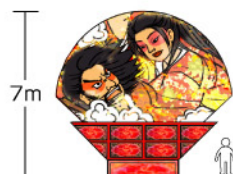
運行・行列

大型ねぶたの出陣台数は22台。扇子持の指示によって引き手が観衆に迫る勢いでねぶたを前進させたり回転させるさまは迫力十分。華やかな衣装を着た「ハネト」が跳ねる度、身に着けた鈴がシャンシャンと音を鳴らします。

囃子・掛け声

囃子は、笛、太鼓、鉦で構成。旋律は七節の繰り返しです。掛け声は「ラッセ！ラッセ！ラッセラー！」。にぎやかさや開放感ある雰囲気から「凱旋ねぶた」と言われます。

弘前 前ねぶた



形態と特徴

運行の中心となる扇ねぶたの高さは約7m。三国志や水滸伝、神話などを題材とした雄壮な武者絵が描かれることが多い表側の「鏡絵」と、憂いを秘めた妖艶な美女が描かれることが多い「見送り絵」の対比が魅力。数は少ないですが、人形型も運行されます。

運行・行列

弘前ねぶたのほとんどは、町内や集落単位で運行されます。約80台のねぶたが出陣。町会長や運行責任者を先頭に、「前灯籠」「町印」「前ねぶた」「本ねぶた」「囃子方」と続きます。

囃子・掛け声

囃子は、笛、太鼓、鉦で構成。進行状況によって「行き」「休み」「戻り」の3節を使い分けています。曳き手は「ヤーヤドー」と声を上げながら、ねぶたの綱を曳きます。闘志を内に秘めた雰囲気から「出陣ねぶた」と言われます。



五所川原 立佞武多

形態と特徴

五所川原では明治～大正時代の初め、巨大ねぶたが町を練り歩いたといわれています。その姿を市民が再現し、1996年より復活させたのが現在の五所川原立佞武多。毎年1台制作されています。高さ約23m。その雄壮さや高欄の美しさは、見る者を圧倒します。

運行・行列

先頭に行くのは、高さ約20mの「忠孝太鼓」。この二連の太鼓が、地響きのような音で心を奮立たせます。人形ねぶたや10mほどの立佞武多のあとにトりの大型立佞武多3台が続きます。

囃子・掛け声

囃子は、笛、太鼓、鉦で構成。地区によって太鼓を横抱きにするなど違いがあります。商人の町五所川原らしく活発で、闘志みなぎる「ヤテマレ！ヤテマレ！」の掛け声からも「喧嘩ねぶた」と称されます。

黒石 ねぶた



形態と特徴

扇ねぶたと人形ねぶたが共存しています。扇ねぶた、人形ねぶたとも表側は絢爛豪華な武者絵ですが、裏側の「見送り絵」には物寂しさをとことん追求した美人画が描かれており、観客はこの見送り絵に魅せられます。

運行・行列

弘前ねぶた同様、団体のほとんどは、町内や集落単位。子どもたちが主役の黒石ねぶた。祭りには、どこかなつかしさが漂います。合同運行は7月30日と8月2日の2日間行われ、約70台のねぶたが運行されます。

囃子・掛け声

囃子は、笛、太鼓、鉦で構成。1972年に「正調黒石ねぶたばやし」が制定され、「進め」「止まれ」「戻り」の3節構成に統一されました。ねぶたは曳き手の「ヤーレ、ヤーレ、ヤーレヤー」の掛け声によって曳かれます。



青森ねぶた



【運行コース】



【開催日程】

- 8月1日 18時～21時頃
ねぶた祭前夜祭 場所／青い海公園特設ステージ
 - 8月2日～6日 19時10分～21時
合同運行 場所／青森市中心街
 - 8月7日 13時～15時頃
合同運行 場所／青森市中心街
 - 8月7日 19時15分～21時頃
青森花火大会・ねぶた海上運行 場所／青森港
- 【問】青森観光コンベンション協会
TEL 017(723)7211

まずは、祭りの中で 躍動するねぶたを体感して

成田 敏さん 歴史民俗研究家、青森ねぶた祭審査委員長



青森ねぶた祭は、「ねぶた」「囃子」「ハネト」の3つの要素が、三位一体で成り立っています。他の地域のねぶた・ねぶたに比べて、自在に動くところが非常に魅力的です。

ねぶた制作者たちは、祭りの中でねぶたが一層生きるように、存分に技術を発揮しています。一見気がつきにくいところにも、重要な配慮がなされています。例えば、要所にロウが塗られていること。にじみを防ぎ、光の通りを良くするので、上手に用いられているねぶたほどメリハリがあり、きらびやかに見えます。



ロウが入ることで、目や衣服の模様などの白と他の色のコントラストが際立ちます。特にロウ点といって、衣服などには水玉状の模様がよくみられます

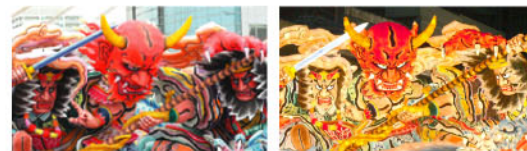


見る場所や時間で変わる印象

伊香佳子さん 青森市新町商店街振興組合理事

新町通りでは、ねぶたをすぐ間近に見ることができます

運行コースによってねぶたの印象が違います。道幅の狭い新町通りでは囃子やハネト、ねぶた本体を迫力満点に間近で堪能でき、広い国道では自在に練り歩く全体像を楽しめます。さらに道幅が広くても狭くても大型ねぶたを回転させる大技は必見。また、ねぶたはあかりが灯っている時といない時、運行時とねぶた小屋(ラッセランド)に収まっている時で、色彩や迫力が全く変わります。ぜひ展示・制作中の動かないねぶたと実際の運行を見比べ、その違いも楽しんで下さい。



あかりが灯っていない状態(左)と灯った状態(右)



「面」と向き合ってみましょう

風晴 貢さん ねぶたボランティアガイド隊隊員

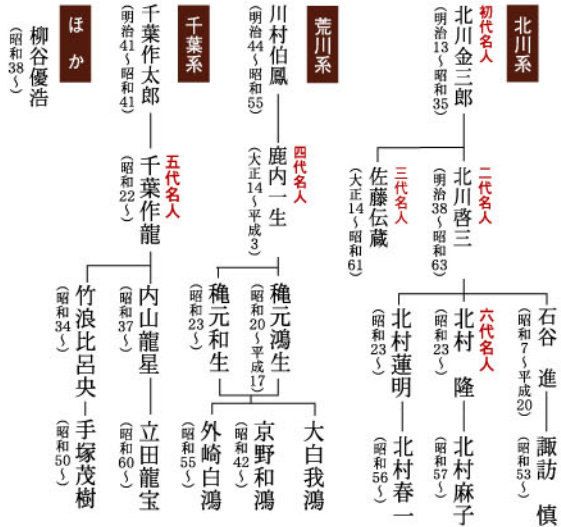
ねぶたを紹介する時は、迫力をより感じてもらえるように、とにかく近づいて見るようおすすめしています。

面の作りからも制作者の系統がわかります。例えば、鹿内一生を師匠に持つ制作者のねぶたは、目が吊り上がり、こめかみが盛り上がっています。鼻の骨組みは3本の針金が縦だけに入っていて、小鼻は狭い。これはあくまで一例。近くで見ても、比べてみると、タイプがあることがわかります。

よく見ると、たしかに鼻のつくりが違います。上が、荒川系の穂元和生さん、下が北川系の北村蓮明さんのねぶたです



ねぶた制作者の系譜 ※現役制作者の系統



骨組みのはなし

骨組みも表現の大事なポイント。制作者は、和紙を貼って、あかりが入った時にどう見えるのかを意識します。女性の面は、ほお骨ラインのメリハリをおさえるなどして優しさを表現します。



実は難しい裸のねぶた

工藤正之さん 青森観光コンベンション協会

骨組みなどの構造や、ねぶた制作者が意識していることを知ると、一層面白く見ることが出来ます。

衣を着ていないねぶたは、骨格がさらされるために、難易度が高いと言われています。第4代名人の鹿内一生(1925-1991年)が作った金剛力士などは、裸かつ一人ねぶた。よっぽど腕に自信がないと取り組めない題材だと思います。



鹿内一生「金剛力士」(1986年)

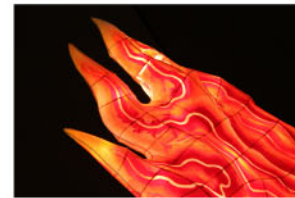


あかりからの表現

後藤公司さん 青森ねぶた跳人衆団跳能會會頭

今のねぶたは、技術力が高く、細部までの造型や色彩にも工夫を凝らすようになりました。あかりの使い方にも、さまざまな工夫がなされています。例えば、炎の表現には暖色系の電球、水や波の表現には、白色の電球、刀には蛍光灯などと使い分けられています。さらに近年は、オールLEDのねぶたも登場しています。

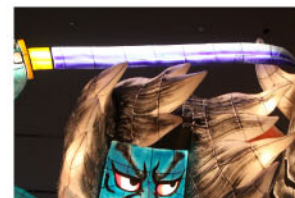
昔のシンプルなねぶたが好きだという人もいるでしょう。ねぶたもハネトも時代と共に変化していくものかもしれません。



炎



水



刀

表現する題材によって、性質の適したあかりを使用しています

ねぶたはインパクト

一戸良太さん 青森高等学校2年



中学1年と2年の時、ねぶたの家ワ・ラッセ主催のねぶた下絵コンクールに応募し、連続で最優秀賞をいただきました。意識したことは、見る人にいかにしてインパクトを与えるかということです。「色彩」は、インパクトを生み出す重要な要素だと思います。

コンクールに応募した時には、ねぶたの主題が引き立つよう色の組み合わせを工夫しました。観覧していても、色がパッと目に飛び込んでくるねぶたほど印象に残り、惹きつけられます。



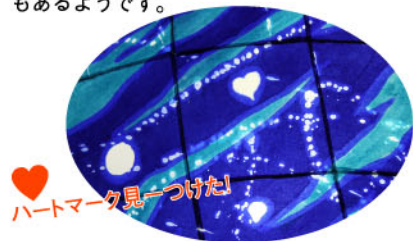
色の組み合わせでインパクトが増します。写真は、一戸さんが目標にする竹浪比呂央さんのねぶた「大間の天妃神 千里眼と哪吒(なた)」(2014年)



第1回ねぶた下絵コンクールでの最優秀賞受賞作品と実際に制作され、ワ・ラッセに展示されたねぶた(制作・北村麻子さん)

探してみよう!

水しぶきの水玉模様の中に一つだけハートマークを入れたり、片隅にかわいい虫を描いたり、制作者がちょっとした遊びを入れていることもあるようです。



ハートマーク見つけた!

七日日



ねぶた・ねぶたの語源は、灯籠を持ち歩く際に、「ねぶた流れろ 豆の葉さ止まれ」と、暑さと眠さを流す「ねむり流し」からきているというのが定説になりつつありますが、その言葉も「ねむた流し」「衾ふた流し」「佞武多流」など様々に記録されています。

確かに昔は、最終日のナヌカ日(七日日)に、青森では堤川に、弘前や五所川原では岩木川にねぶた・ねぶたを流していました。

この「ねむり流し」の風習がわずかに受け継がれているのが、青森ねぶた最終日夜の海上運行です。台船に各賞を受賞したねぶたを乗せ、花火大会が行われている青森港を運行します。この夜は花火と海上運行が見物できる座席だけでなく、青森港を囲む岸壁や公園の浜がどこもかしこも思い思いの市民栈敷に変わります。打ち上げ花火を背景に、ねぶた囃子にのってゆらゆらと夜の海をゆくさまは、雄壮であるのと同時に、去りゆく夏を見送る哀愁をも誘います。

祭りの余韻
青森の夏を流す、ねむり流し



青森市文化観光交流施設 **ねぶたの家 W・ラッセ**



大型ねぶたが並ぶねぶたホール



ねぶたの歴史を紹介



売店ではグッズもいろいろ

青森ねぶたの歴史や制作者の作風を紹介

ねぶたミュージアムでは、天井から吊り下がる金魚ねぶたのトンネルをくぐり館内を進むと、ねぶたの基礎知識や歴史、受賞したねぶたの紹介、ねぶた師の業績を知ることができます。ねぶたホールでは、ねぶた大賞受賞のねぶた

を中心に常時5台のねぶたを展示。壁に飾られたねぶた面は、全ねぶた制作者の作風の違いを知ることができます。タッチねぶたは、普段はわからないねぶたの骨組みの中が見られるだけでなく、手で触ることも可能です。

体験してみよう!

入館者は無料でハネト・囃子体験ができます。これまでは土・日・祝日のみでしたが、2015年4月からは平日も行われることになりました。(体験時間約30分／11:00、13:00、15:00の1日3回)

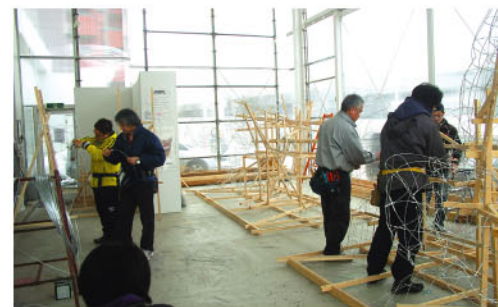
(施設情報)

【住所】青森県青森市安方1-1-1
【電話】017(752)1311
【開館時間】9:00～18:00(5月～8月 9:00～19:00)
【休館日】12月31日、1月1日
【入館料】大人:600円 高校生:450円
小・中学生:250円
【HP】<http://www.nebuta.or.jp/warasse/>



竹浪比呂央ねぶた研究所

アスパム近くにある「竹浪比呂央ねぶた研究所」は、ねぶた文化の後継者育成と、「紙と灯り」の造形としての可能性を求めて、2010年にオープンしました。ねぶたの制作工程を知ることができます。またTシャツや手拭いなどのねぶたグッズの販売も行っています。



青森ねぶたの制作現場を通年で見学できる

(施設情報)

【住所】青森県青森市安方2-2-8
【ファクシミリ】017(752)1616
【開館時間】10:00～17:00
【休館日】月曜(祝日の場合、翌日)、年末年始
【HP】<http://takenami.hiroo-nebutaken.com/hiroo.html>



青森ねぶた若手制作者集団「ねぶた屋」

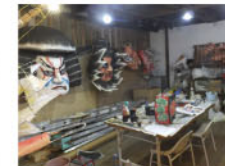


「ねぶた屋」は、若手ねぶた制作者が、技術の研鑽、研究のための環境を流派を超えて作っていきと創設した団体の施設。グッズ販売やねぶたのレンタル、講演などの活動も行っています。現在、外崎白鴻、立田龍室、北村春一、手塚茂樹の4人が所属しています。

若手ねぶた師が参加し切磋琢磨

(施設情報)

【住所】青森県青森市安方1-5-6
YASUKATA GARAGE内
【電話】017(775)9150
【営業時間】9:00～18:00
【定休日】年末年始
【HP】<http://www.nebutaya.com/>





弘前ねぶた



【開催日程】
 8月1日~4日 19時~
 合同運行 場所/土手町コース
 8月5日・6日 19時~
 合同運行 場所/駅前コース
 8月7日 10時~
 合同運行 場所/土手町なぬか日コース
【問】弘前市立観光館
 TEL 0172(37)5501



鏡絵と見送り絵の「動」と「静」で魅了

三浦吞龍さん ねぶた絵師、津軽錦絵作家協会会長

ねぶた絵はその年のねぶた祭りのために毎年描き下ろされるひと夏だけの絵です。今でこそ、デジタルカメラなどで簡単に映像を残せるようになりましたが、それでも「一期一会」の精神性は失われることがなく、人々の記憶の中に残っているものだと信じています。

雄壮な武者絵が描かれた「鏡絵」が近づいてくると、見る人は気持ちを高ぶらせずにはいられません。背面の「見送り絵」には基本的に女性が描かれ、去り際にしみじみとした余韻を残します。ねぶた絵師は、鏡絵と見送り絵がそれぞれ表す「動」と「静」のコントラストを意識して、見る人たちを魅了させようと、構想も含め1年かけて絵を描きます。二つの絵を引き立てる額絵や袖絵にも注目すると面白いかもしれません。



制作をする三浦吞龍さん。扇ねぶたは描いた絵を骨組みに貼りつけて作られます



額絵の漢雲は右読みで“ウンカン”

「雲漢」は「天の川」の意味です。ねぶた祭りが、七夕祭りの中のねむり流しという風習から転化した祭りであることを示しているといえます。



三浦さん制作の2011年最高賞の県知事賞受賞ねぶた「水滸伝『花和尚奮戦之図』」。雄壮な戦いの場面の鏡絵(上)と、平安を表現し、余韻を残す見送り絵(下)。見送り絵の周りを袖絵と呼びます

ねぶたをより味わうコツは 昼間の弘前を歩くこと

佐藤ぶん太、さん 津軽の横笛奏者、お山参詣保存会理事



囃子は「はやしたてる」の意味だと自分では解釈しています。つまりねぶたの山車や運行を盛り上げるためにあります。主役ではないが、奏者によって運行の雰囲気ガラリと変えてしまう。これは技術的な問題だけではなく、むしろ情感や風情の出し方、人間臭さといった表現の違いによるものなのではないでしょうか。

ねぶたをより味わうコツは、祭りだけを見るのではなく、昼間の弘前を歩くことです。弘前は寺院が並ぶ街並みがあったり、りんご畑が広がる農村部があったりと、エリアごとにさまざまな特徴があり、ねぶたにもそういった風土が活かされています。四季豊かな自然に囲まれ、そこに住む人々が何を感じているのか。背景を知ることで楽しみ方の幅が広がります。



りんご畑と岩木山



祭りの風景は、津軽に住む者の心そのもの

日本独特の表現技法から 編み出された「ねぶたの墨」

三浦俊一さん

弘前大学大学院地域社会研究科客員研究員、運行団体「必殺ねぶた人」制作総指揮



ねぶたは墨の描写表現が特徴的と言えます。中国・台湾といったアジアのランタンと比べるとわかりやすいですが、ねぶたは、デフォルメ(誇張表現)や強調表現を多用しているのです。これは、現代であればアニメや漫画にも当てはまる、日本特有の誇張・強調表現の文化と言えるでしょう。墨を入れるのもその一つで、発光体であるねぶたの影の部分の強調して描写表現する技法です。これにより、明暗のコントラストの幅が広がるため、骨組の陰影の印象を弱めるといった効果も生じます。折り重なるように描かれる躍動感ある武者絵のポーズを見ても、その独特の誇張表現に気づくことができるでしょう。



墨の存在で、ねぶたの迫力が一層際立ちます
(写真は三浦さん制作の人形ねぶた)

弘前ねぶた検定にチャレンジ!

Webサイトで弘前ねぶた検定を受験し、ねぶたに関する知識を蓄えてから観覧すると、もっともっと楽しめます!

【HP】<http://neputa.jp/cgi-bin/suntack.cgi>



祭りをトータルで見てください



自己採点のすすめ

大中実さん 東地区町会連合会ねぶた代表

漠然と眺めるのではなく着点を持つことで、ねぶたを一層楽しむことができます。

弘前ねぶたまつりコンテストでは、「構造」「絵」「運行」「囃子」の項目それぞれについて10点満点で採点し、総合点で順位が決まります。自分でねぶたを見る時にもそれぞれの項目に注目し、採点してみてもいいかもしれません。実際の審査結果と比べたり、友達と着点点を共有し、それぞれ採点した結果について話し合ってみるのもおすすめです。

津軽藩ねぶた村



職人技を間近に見学できる体験エリア



津軽三味線の生演奏



大型ねぶたを展示する見学エリア

ねぶたや津軽の工芸から地域文化を伝える

弘前公園に隣接する津軽藩ねぶた村は、見学と体験、日本庭園、ショッピングの四つのエリアに分けられています。見学エリアでは高さ10m級の大型ねぶたや金魚ねぶた、ねぶた絵師たちの作品などを常設しています。歴

史資料も充実しており、ねぶた囃子の演奏も聞くことができます。体験エリアは津軽塗やこぎん刺しといった津軽地方に伝わる民芸品の制作ができるほか、制作中の職人と触れ合いながら解説を聞くことも可能です。

体験してみよう！

工芸を中心に17種の体験コーナーがあり、たっぷり津軽の文化を楽しむことができます。当日受付も可能ですが、予約をおすすめします。

(施設情報)

【住所】青森県弘前市亀甲町61

【電話】0172 (39) 1511

【開館時間】9:00~17:00

(12月~3月 9:00~16:00)

【休館日】12月31日

【入館料】大人:550円 中高生:350円

小学生:200円 幼児(3歳以上):100円

【HP】<http://www.neputamura.com/>



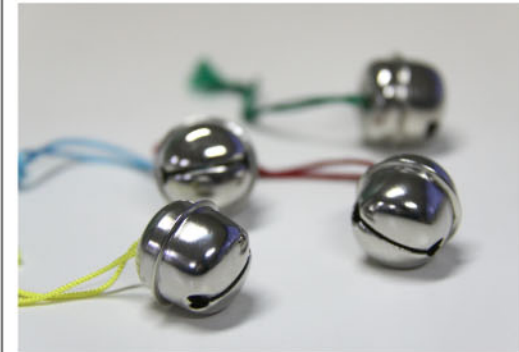
祭りの名脇役



金魚ねぶた

ねぶた・ねぶた祭りが近づくと、駅や商店街などに飾られ町を鮮やかに彩る「金魚ねぶた」(地域によっては「金魚ねぶた」)。津軽藩で飼育され、親しまれていた地金魚「津軽錦」がモデルとされ、この姿を多くの人に見せたいという思いから生み出されました。津軽錦そのものは現在は生息していませんが、金魚ねぶたにはその特徴が受け継がれ、愛嬌のある姿で祭りを盛り上げています。

鈴



笛や太鼓、「ラッセラー」の声に混じって聞こえてくるシャンシャンという涼しげな音色。ハネトの衣装にいくつも縫い着けられた鈴が、跳ねる度に弾むように鳴る音です。いつ頃から衣装に鈴を着けるようになったのかははっきりしませんが、戦後定着したものようです。

鈴はねぶたグッズを売っている店で購入できますが、「幸せを呼ぶ鈴」とされるハネトが落としていった鈴が、観光客から人気を集めています。



五所川原立佞武多



【運行コース】



【開催日程】

8月4日～8日 19時～21時頃

合同運行 場所／五所川原市中心街

【問】五所川原商工会議所

TEL 0173(35)2121



これこそ「もつけ」魂

松本友義さん 五所川原立佞武多運行団体協議会会長

魅力はなんといっても、ひと目でわかるインパクト。立佞武多の館から20mを超える立佞武多がのっそり登場すると、ものすごい迫力があります。よくこんな巨大なものを復元しようと思ったものです。津軽弁で、ふざけたり常識から外れたような人を「もつけ」と表現しますが、五所川原にはそうした「もつけ」が多い。だからこそ柔軟な発想とパワーで、規格外の立佞武多を生み出すことができたでしょう。五所川原の風土と人々の心が生んだ、まさにここならではのものです。



立佞武多の館から出陣する立佞武多



3台が合流する圧巻シーン

神 奴恵子さん 珈琲詩人代表



珈琲詩人前の交差点(下の地図の円内)

五所川原市の大町交差点沿いで喫茶店を営んでいます。祭りの時、店の前は3台の大型立佞武多が、ラストで一堂に会する場所なんです。1996年に立佞武多が復活した頃、お店を建て替えた際に、屋上でも立佞武多を見ることができるようになりました。栈敷席券を飲物とセットで前売り販売していて、毎年すぐに完売してしまうほどの人気スポットになっています。栈敷席に座ると、迫り来る3台のねぶたを間近に見ることができ、迫力満点です。



高欄の様子はテーマと連動

齊藤忠大さん 立佞武多制作者

五所川原の大型立佞武多の制作者は3人います。3年に1台のローテーションで作っています。自分が担当する年以外は、他の2人の手伝いをしているんです。

型にはまらず、さまざまな表現を模索し、挑戦していきたいですね。人形を引き立たせるため、人形以外の表現にも工夫を凝らしていますので注目して下さい。私は台座となる高欄にも凝っているんです。テーマと関連性を持った模様を考えるのが好きです。



齊藤さん制作の高欄。テーマにちなみ、梵珠山一帯で北斗七星の配列にある「東薬師堂」「梵呪山真言院」など7つのお堂に関連した内容を描いている。

面の高さに注目

齊藤さんの立佞武多は、面を高い場所に作るのが特徴。天からぐっと、街や人を見つめます。



齊藤忠大「陰陽 梵珠北斗星」(2013年)

あらゆる角度から見てみて

福士裕朗さん 立佞武多制作者



立佞武多は、ブロックごとに制作し、最後に積み上げるという作り方をしています。そのため、全体像を見ることができるのは、最後の最後。制作前に下絵や小さなモデルを作っていますが、ブロックを合体させた時にどう見えてくるのか、うまくいってこれと祈る気持ちでのぞんでいます。

立佞武多は、年間を通して立佞武多の館に展示しています。下から見上げるだけでなく、上からも見ることができるんです。なので、なかなか制作は大変。あらゆる角度から見られることを意識して作り込んでいます。

ぐっと迫る人形に注目

福士さんの立佞武多は、人形が見る人に覆い被さってくるような印象を与える作りが特徴。この立佞武多は2015年2月にブラジル・サンパウロに寄贈されました。



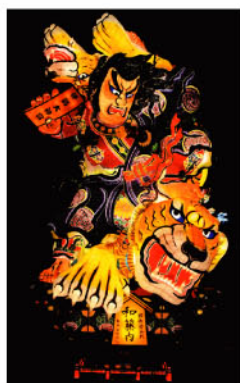
福士裕朗「復興祈願 鹿嶋大明神と地震鯨」(2012年)



上から



下から



前から



後ろから

鶴谷昭法「国性爺合戦 和籾内」(2014年)

高さを意識して遠近感を工夫

鶴谷昭法さん 立佞武多制作者



立佞武多は、縦に長いことから、下から見ると面が小さく見えたり、胴が長く見えてしまうため、そこを計算に入れながら制作をしています。

立佞武多はまだ歴史が浅いため形が固まっていません。あえて形を崩してみたり、台から体をはみ出させてみたりといった試行錯誤ができる自由度の高さが制作していて楽しいところです。五所川原を題材にした立佞武多を作りたいとも考えています。子どもたちが自分の住む土地の伝説などに興味を持ってもらえたら嬉しいですね。

鮮やかな色彩に注目

鶴谷さんの立佞武多は、全体に派手な色彩が目を楽しめます。近くでさまざまな描き込んだ模様を見るのもおすすめ！



立佞武多の館



スロープの展示

立佞武多製作所

あらゆる角度から立佞武多を見ることができます

あらゆる角度から大型立佞武多を見よう！

館内は大型立佞武多が丸ごと収められた展示館になっており、祭りでは立佞武多はここから出陣します。すぐ間近で見る立佞武多は大迫力。エレベーターで上階に上がり、スロープを下りながら全体像を眺めることができます。

館内には「立佞武多製作所」が設置され、制作中の立佞武多の現場を見学できるほか、紙貼りや色付けの体験も行っています。他に食事を楽しめ、夕陽の光景が自慢の展望ラウンジや、美術展示ギャラリーなどもあります。

体験してみよう！

5階の遊樂工房「かわらひわ」では金魚ねぶたの制作体験ができます。白い金魚ねぶたを自分好みに塗ってみましょう！希望者は金魚ねぶたを骨組みから作ることもできます。

(施設情報)

【住所】青森県五所川原市大町21-1
【電話】0173(38)3232
【開館時間】9:00～21:00(冬時間有)
立佞武多展示室 4月～9月 9:00～19:00
10月～3月 9:00～17:00

【休館日】1月1日(開館の場合もあり)

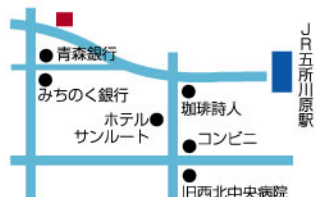
【入館料】

●立佞武多展示室(A)
大人:600円 高校生:450円
小・中学生:250円

●美術展示ギャラリー(B)
大人:300円 高校生:100円
小・中学生:100円

●(A)(B)のセット割引あり

【HP】<http://www.tachineputa.jp/>



五所川原駅

お役立ち情報



青森ねぶた

参加するなら／誰でも自由に参加できます。ハネト衣装(正装)を着て、運行30分前までに、コースに待機しているねぶたの団体に加わりましょう。

ハネト衣装はデパートなどで販売やレンタルを行っています。団体によっては、決まった衣装がありレンタルから着付けまでをセットで行っているところもあります。詳しくは青森観光コンベンション協会までお問い合わせください。

観覧するなら／出陣前のねぶたを、青い海公園のラッセランドで観覧できます。7月1日～8月6日の日中はガイド本部も設置されており、無料でねぶた小屋を案内してもらうことができます。

運行中のねぶたは、コース沿線歩道のどこからでも観覧できます。座ってゆっくり楽しみたい方はコース沿いの有料観覧席もおすすめです。

【問】青森観光コンベンション協会

TEL 017(723)7211

【参加に関するHP】

<http://www.nebuta.jp/sanka/sanka.html>

弘前ねぶた

参加するなら／一般参加を受け付けている団体へ事前に申し込み、それぞれのルールを守りご参加ください。団体への連絡先は、弘前市立観光館までお問い合わせを。

観覧するなら／コース沿線歩道で自由に観覧できるほか、有料観覧席もあります。

【問】弘前市立観光館

TEL 0172(37)5501

五所川原立佞武多

参加するなら／誰でも自由に参加できます。正装で、運行までに立佞武多の館の前に行き、団体に加わりましょう。

観覧するなら／コース沿線歩道で自由に観覧できるほか、有料観覧席もあります。

【問】五所川原商工会議所

TEL 0173(35)2121

黒石ねぶた

観覧するなら／コース沿線歩道で自由に観覧できるほか、有料観覧席もあります。

【問】(公社)黒石青年会議所

TEL 0172(52)3369

1枚でねぶた・ねぶた関連施設を回れるNEP×NEBパスポート

ねぶたの家ワ・ラッセ、津軽藩ねぶた村、立佞武多の館では、3館共通入場券「NEP×NEBパスポート」を販売しています。青森、弘前、五所川原の各市それぞれのねぶた・ねぶた祭りの見所や周辺情報、MAPなどを掲載したガイドブック付き。津軽の三大火祭りを一度に回るのに、ご利用ください。

【料金】大人1,400円、高校生1,000円、中学生700円、小学生600円

【問】津軽広域観光プロモーション協議会事務局

TEL 017(734)2328





黒石の伝統ここにあり

中田伸一さん 黒石ねぶた保存会会長



黒石ねぶたには扇と人形のどちらもありますが、人形ねぶたは人形を「五段高欄」に乗せることと、後ろに見送り絵があることが特徴です。黒石伝統のスタイルをかたくなに守り、今に受け継がれています。

高さ4.5m、幅・奥行き各5mという規格の中でも、台から人形の手や足をはみ出すような構図にして躍動感と迫力を感じさせる工夫をしています。

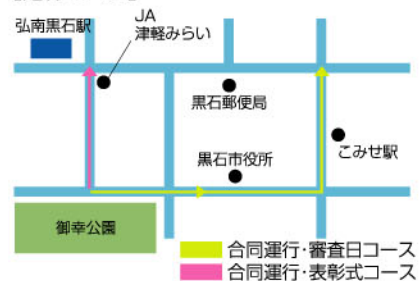


五段高欄に乗った人形ねぶた

黒石ねぶた



【運行コース】



【開催日程】

7月30日 18時30分～

合同運行 場所／審査日コース

8月2日 18時30分～

合同運行 場所／表彰式コース

※このほか7月31日～8月1日・3日～5日には、各団体が各町内を運行する。

【問】(公社)黒石青年会議所

TEL 0172 (52) 3369



こみせの風情とぴったり

鳴海文四郎さん 黒石こみせ保存会会長、鳴海醸造店6代当主

藩政時代のアーケードが連なる「こみせ」通りは、毎年7月30日、黒石ねぶたの合同運行のコースになり、古いたたずまいを残すこみせの街並みと、ねぶたが調和し、独特の風情があります。

また、ねぶたの時期には、小学生が描いた角灯籠がこみせの軒に吊られ、道行く人を楽しませてくれます。



こみせを行くねぶた

緻密な描写を間近で見よう！

黒石ねぶたの合同運行では、運行コースの道路幅が狭い分、観客はねぶた絵を間近に見ることができます。絶え間なく登場するねぶた絵の緻密な描写を審美、堪能できるのは、黒石ならではの魅力といえます。



ねぶた・ねぶたの起源と由来



諸説ある起源

ねぶた・ねぶたの起源は諸説伝えられている。一般的によく知られているのは、征夷大將軍・坂上田村麻呂が蝦夷征伐の際、敵をおびき出すために作った大灯籠が元という説である。ねぶた大賞が過去に田村麿賞と呼ばれていたのはそのためだ。しかし史実では田村麻呂自身は青森の地まで来ておらず、今では大灯籠は伝承の一つにすぎないと考えられている。

現在有力な説は、奈良時代に中国から渡来した七夕祭りと、夏の睡魔を追い払う行事であるねむり流しや精霊送り・虫送りなど古来から津軽で行われていた行事が一体化したというものである。「ねむり」が訛って「ねむた」→「ねぶた・ねぶた」と変化したのだろう。ねぶた・ねぶたは、都市で発達していった。参加団体が競い合うことによって大型化、形も人形型や

扇形に進化し、現在見られるねぶた・ねぶたになったのだろう。

『弘前藩庁御国日記』(1722年)には、津軽藩主・津軽信寿が「祢ふた」「祢むた」を観覧したという記述があり、これがねぶた・ねぶたという言葉が史料に登場した最初とされている。

弘前藩士・比良野貞彦が残した『奥民図彙』(1778年)はもっとも古いとされるねぶたの絵図で、灯籠の形や大きさだけでなく、笛・太鼓・囃子言葉なども記されており、当時の祭りの様子を知ることのできる貴重な資料である。

「ねぶた」と「ねぶた」

青森が「ねぶた」、弘前が「ねぶた」という表記と発音になったのは、弘前が1957年、青森が1958年。観光行事の名称として、ねぶたか、ねぶたかを選択した。しかし、現在でも青森で「ねぶた」、弘前で「ねぶた」

という使われ方が少なからず残っているようだ。

それ以外の津軽・下北の地域でもねぶた・ねぶたは独自の変遷を見せており、青森の短い夏の一時をその土地の特色豊かに彩っている。

港まつりだった青森ねぶた

青森ねぶたは、港まつりと七夕祭りが一緒になったものである。

威勢の良さゆえに、「野蛮な悪習」として明治時代に禁止されたことがある。大戦中も禁止されていたが、戦後の1947年に復活した。照明がろうそくから電気に替わり、海上運行も行われるようになった。

城下町・弘前のねぶた

1593年、京都に逗留中だった初代津軽藩主・津軽為信が、孟蘭盆会で家臣に命じて約4m四方の大灯籠を作らせ、京の人々の驚きと喝采を浴びたという。この挿話

は弘前ねぶたの起源の一つとして伝えられている。

復活した五所川原立佞武多

五所川原では明治・大正期に豪商や大地主たちが力の象徴としてねぶたの大きさと高さを競い合った。大きい物は20mを超えるものもあったという。電気の普及で電線が張り巡らされた事によって小型化し、やがて幻となった。

しかし、1996年に当時の設計図と写真が見つかり、有志によって80年ぶりに往年の巨大立佞武多が復活した。

伝統を残す黒石ねぶた

黒石ねぶたは『山田日記』(1786年)で七夕祭りという名称で見られる。『分銅組若者日記』(1831~1870年)にもねぶたが100点ものスケッチとともに度々登場する。その記述によると当時の黒石ねぶたは人形型で、一人持ちが基本だったようだ。



今 純三・画
「ネブタ運行の光景」
(1928年)



青森ねぶたの絵葉書より。大正末期～昭和初期頃の一人担ぎねぶた



青森ねぶた

サトウ ユウジさん

おすすめスポット

祭りの開催期間は、ねぶたを正面からしっかり撮影したいならば、ねぶた小屋が並ぶ「ラッセランド」に行くと良いでしょう。8月1日の前夜祭では、あかりが入ります。

祭りの臨場感を撮るならば、「**新町通り**」がおすすめ。道が狭いため、練り歩くねぶたを近い位置から撮る事が可能です。

アングルのポイント

ねぶたの面を撮る場合、こちらにぐっと迫ってくるようなアングルを意識しています。ねぶた制作者には、「ここから見てほしい」というアングルがあるんです。立ち位置を変えながら、ベストアングルを探して撮影しています。

運行中のねぶたはどうしてもぶれてしまうもの。ぶれないためには、正面からとると良いでしょう。



角度がちょっと違うだけで、印象が変わります

弘前ねぶた

八木橋 廣さん

おすすめスポット

弘前ねぶたまつりでのおすすめは、8月1日～4日は「**まちなか情報センター**」、5日～6日は「**駅前広場**」が良いでしょう。迫力ある色々な動きをするねぶたや、祭りに参加する人々のパフォーマンスを撮影出来ます。

心から弘前ねぶたを愛する人たちの姿も、祭りの高揚感を伝える大事な要素です。

アングルのポイント

ねぶたの武者絵の中に描かれている『中心人物』の目線の方向から撮影すると、迫力のある「カメラ目線の写真」が撮れます。



主役を見つけて、その目線を意識して！

五所川原立佞武多

尊馬 謙太郎さん

おすすめスポット

「**立佞武多の館付近**」が良いでしょう。五所川原駅からも近く、祭りの終盤に大型立佞武多が集結する場所でもあり、混雑していますが、他の場所より明るく、撮影に向いています。

アングルのポイント

立佞武多の迫力は、まさに天を突くような高さにあります。その高さを写真でいかに表現できるかが撮影の肝です。そのために、まわりの建物や、下にいる観客などが入るアングルが有効です。立佞武多の背景に建物などが入るだけで、ひと目で立佞武多の高さが伝わります。



背景が見えるだけでインパクトがアップ！

黒石ねぶた

土屋 隆昭さん

おすすめスポット

7月30日の合同運行での「**御幸公園**」と「**こみせ通り**」です。

御幸公園の、出陣を控えた70台のねぶたがずらりと並ぶ光景は圧巻。また、こみせ通りは、なんとと言っても風情があります。道も狭いので、間近に見ることができ、ねぶたへの親近感を持って撮影することができます。

アングルのポイント

こみせ通りでの、こみせの中からねぶたが入るアングルをおすすめします。軒下に吊されている角灯籠を組み合わせると、一層情緒深さが増します。こみせ通りを運行するのは7月30日のみです。シャッターチャンスはこの日だけです！



こみせ通りで撮影。角灯籠と黒石ねぶた